

イスラエルと教会

アミール・ツアルファティ

- 神の妻としてのイスラエル、メシアの花嫁としての教会 -

<https://youtu.be/bEN9iv7C2nE>

今朝のメッセージのタイトルは、『イスラエルと教会』。「御父の妻」と「御子の花嫁」。とても、とても面白いです。まず第一に、はっきりさせておかないといけないのは、国としてのイスラエルは、最初から…、（というのも、創世記ではイスラエルはまだ国ではありませんでした。先祖の事が語られています。）いかに神がアブラハム、イサク、ヤコブを通して働き始めたか。それから、彼らは皆、エジプトに下っていきました。ちょうど400年後、モーセが彼らをエジプトから連れ出すように召された時、その時に初めて、イスラエルは国として導かれたのです。そして初めの初めから、神は、決して彼らが他の国々と同じ様になる事を意図されませんでした。はっきりさせましょう。イスラエルは普通の国ではないのです。また、もう一つ、はっきりさせておかなければならないのは、私は、彼らが良いとか、素晴らしいとか、尊敬に値するとか、全く、そういう話をしているのではありません。神はイスラエルを、他の国々とは異なる事を意図して造られたのです。それは、彼らがそれにふさわしいからではなく、神がそういうお方だからです。どのくらいの方がそれを理解されていますか？手を挙げてもらえますか？皆さん、声に出して言ってください。「イスラエルが特別なのは、彼らがそれにふさわしいからではない。神がそういうお方だからです。」いいでしょう。絶対にイスラエルを崇拜してはいけません。いつも、イスラエルの神を礼拝してください。いいですね。そういうわけで、彼らは元来、異なる事を目的として造られた事を理解しました。孤立するように。孤立するというのは、ちょっと悲惨な響きがしますよね。「ああ、寂しいでしょう。ああ、お付き合いしましょうか？」そうではありません。邪悪な世界で孤立する事は、実は特権なのです。

「神が祝福したものを、どうして呪うことができようか。」（民数記23:8）

民数記23章7節—10節で、バラムが尋ねています。異邦人の王たちの一人、モアブの王バラクは、いかにイスラエルの神がイスラエルの民を導き、彼らのために戦っているかを耳にしました。そして、モアブの王は、物理的な領域では、決してイスラエルを倒す事が出来ないの理解しました。また、彼は、自分が見ているものがとても霊的なものである事も理解しました。「それゆえ、我々は霊的な領域に入り、そこで彼らを攻撃しなければならない。」なぜなら、物理的な領域では明らかにうまくいっていないから。そこで彼は、一人の人物に話を持ち掛け、お金を払って、言います。「行ってくれ。しかし、彼らとは、剣や、機関銃や、戦車や、F-16（戦闘機）を使って戦うな。ただ、山の上に立って、彼らの上に呪いを宣言してくれ。」霊的に。ちなみに、霊的な領域は物理的な領域よりも危険が少ないわけではありません。だからこそ、私たちは、かぶとをかぶり、胸当てをつけ、手には剣を持つようにと命じられているのです。昨日の事を思い出してください。私たちの剣は何ですか？御言葉です。それを忘れないでください。それがあなたの剣です。皆さんが空港に行き、そして聖書を持っていて、「武器を所持していますか？」と聞かれたら、何と答えるかは、あなた次第です。イスラエルでは、「持っています」とは言うてはいけませんよ。なぜなら…、しかし私が皆さんに知っておいて欲しいのは、「バラムは彼のことわざを唱えて言った。」民数記23章です。民数記23章7-10節。

**「『バラクは、アラムから、モアブの王は、東の山々から、私を連れて来た。』」今のヨルダンがある場所です。
「『「来て、私のためにヤコブをのろえ。来て、イスラエルに滅びを宣言せよ。』」」**

バラムが言う事に注目してください。彼はユダヤ人ではありません。彼はユダヤ人を呪うために雇われているのです。彼は言います。「『神がのろわない者を、私がどうしてのろえようか。主が滅びを宣言されない者に、私がどうして滅びを宣言できようか。』」彼の言う事に注目してください。「『岩山の頂から私はこれを見、丘の上から私はこれを見つめる。見よ。この民はひとり離れて住み、おのれを諸国の民の一つと認めない。』」

要するに、バラムはこう言っています。私はその秘密を知っている。私には分かる。この人たちは、他の人たちと同じようになる事を望んでいない。彼らは、自分たちを他の民と同じだと認めない。彼らは本当に分け隔てられている。

「『だれがヤコブのちりを数え、イスラエルのちりの群れを数えようか。私は正しい人が死ぬように死に、私の終わりが彼らと同じであるように。』」（民数記23:7-10）

(モアブの) 王は、呪いを聞く気満々でした。彼はバラムに気前よく支払って、そこに座って見えています。そこへバラムは立って、呪う代わりに、彼は、要するに、こう言います。私が彼らを呪えるわけがない。彼らは祝福された者たちなのだ。

すごく私たちは理解しなければなりません…。私たち、クリスチャンの頭の中にある事に反して、…クリスチャンとして、私たちは考えます。キリストにあっては、ユダヤ人も異邦人もギリシャ人もなく、また、女も男もなく、奴隷も自由人もない。それは真実であり、聖書に沿っています。しかし、私たちが忘れてはいけないのは、それはキリストにある場合のみです。という事は、私たちが信じる者になったら、ユダヤ人信者でも、フィリピン人信者でも、全く違いはありません。しかし、キリストから離れては…私たちがイスラエルを見て、それから世界の他の国々を見るとイスラエルは分け隔てられていて、特殊です。理由があって、異なっています。「一定の期間の間」とも付け加えさせてもらいましょう。「何言ってるんだ？」何の話をしているかということ、イスラエルは、永遠に孤立するものではありません。でも、違いはあります。新約聖書でさえも、そう言っています。パウロがローマ人への手紙3章1-3節でその事を語っています。

ローマ書3章1-3節。

「では、ユダヤ人のすぐれたところは、いったい何ですか。割礼にどんな益があるのですか。それは、あらゆる点から見て、大いにあります。第一に、彼らは神のいろいろなおことばをゆだねられています。では、いったいどうなのですか。彼らのうちに不真実な者があつたら、その不真実によって、神の真実が無に帰することになるでしょうか。」（ローマ3:1-3）

基本的に、パウロはローマの教会に向かって言っています。おもしろくないですか？それをローマの教会に言っているんです。近年、彼らがどうしてこんなに反ユダヤ的になったのか、神のみぞご存知です。彼がローマの人々に伝えているのは…、ところで、それはユダヤ人と異邦人から成る教会でした。異邦人だけではありません。事実、そこでは、ほとんどがユダヤ人でした。だから、ローマ人への手紙は、旧約聖書で満ちているのです。そしてパウロは、彼らに言っています。言っておきますが、ユダヤ人は、キリストを除いては、孤立しているだけで、大きな利点があります。繰り返しますが、その利点は信者になった時点で無効になります。それが分かりますか？しかし、キリストを除いては、神が彼らの事を、非常に独特な方法で扱われている事実を否定できません。2000年にわたって自国の地から離れていた後で、彼らがまた戻っているという事実、彼らは自分たちの言語に戻り、自分たちの文化に戻り、自分たちの故郷に戻って来たのです。これは前代未聞です。地球上どこにも、イスラエルが乗り切った事を乗り切った国はありません。そして、それはイスラエルが強くて、賢くて、美しく、偉大だったからではありません。それは、神が強いからです。神が賢いから。神が美しく、神が偉大であるからです。

イスラエルを守る方は、まどろむこともなく、眠ることもない。（詩篇121:4）

それは神なのです。神は、常に、最初から、世界の国々にご自分が誰であるかを見てもらいたいと願っておられました。ご自分がイスラエルをどのように扱うかを通して。だから利点があるんです。ローマ書9章で、パウロはこう始めます。（ローマ書9:1-5）

「私はキリストにあって真実を言い、偽りを言いません。次のことは、私の良心も、聖霊によってあかししています。」（ローマ9:1）

ところで、パウロは、ローマ書9章のような強い書き方をした事は、他に一度もありません。彼は言います。「みなさん、いいですか。これから話すことは、私から出ていることではない。」言っておくが、私から出た事ではない。まず第一に、私は偽りを言っていない。パウロが書き出しに「私は偽りを言っていない」と言ったことがありましたか？ここです。彼が言おうとしている事が重要だからです。彼の事を嘘つき呼ばわりなど出来ませんよ。彼が言っているのではないのです。彼は言います。「私は…偽りを言いません。次のことは、私の良心も、…あかししていません。」何によって？「聖霊によって」です。「私ではない」聖霊が今、私を通して語っている。そして、彼は言います。「私には大きな悲しみがあり、私の心には絶えず痛みがあります。」大きな悲しみというのが、どういう意味か分かりますか？「悲しみの人」とは、誰でしたか？イエスです。悲しみの人。悲しみ…それが、信じるユダヤ人が、信じないユダヤ人を見る時に感じる事です。まだ自分自身の正義を確立しようとしていて、メシアを拒絶しているユダヤ人。悲しみ…もしも、あなたがたがそれを喜んでいなければ、あなたがたは神のものではありません。あなたには、その悲しみがなければなりません。すべての信者は、聖霊があなたの内にその悲しみを与えなければなりません。信じないユダヤ人が、自分の救世主を拒否するのを見ると、あなたには、悲しみや痛みがなければなりません。そして、その痛みや悲しみは敵意を生みません。その反対です。祈りです。ローマ書9章1-5節。

「私の心には絶えず痛みがあります。もしできることなら、この私が」…何になると？「のろわれた者となる」

パウロは言います。もしも、私の国、私の同胞がキリストのもとに来ることが出来るならば、そしてそれが、私ののろわれた者（アナテマ）となることを意味するならば、私はそうしたい、と。しかし、あなたは自分の兄弟の代わりに信じることは出来ません。お母さんの代わりに信じる事は出来ません。妹の代わりに新しく生まれる事は出来ません。それは、個人の問題なのです。彼らのために祈り、彼らのために執り成し、痛みと悲しみを抱え、大いなる執り成しをする事は出来ます。でも、あなたに出来ない事は…モーセでさえ、神に願いました。「神よ。人々の代わりに私が、彼らがシナイ山でしたことの報いを受けられますか？」神は、ダメだと言われます。「モーセ、そうはいかないのだ。」わたしは、彼らがした事のためにあなたを罰しはしない。そして、ここでも同じ事が言えます。

「もしできることなら、私の同胞、肉による同国人のために、この私がキリストから引き離されて、のろわれた者となることさえ願いたいのです。彼らはイスラエル人です。」さあ、注目してください。「子とされることも、栄光も、契約も、律法を与えられることも、礼拝も、約束も彼らのものです。先祖たちも彼らのものです。またキリストも、人としては彼らから出られたのです。」（ローマ9:3-5）

キリストとはだれですか？キリストとは何者ですか？エホバの証人が同意しないのは、ここです。彼らの聖書には、それが書かれているかどうかはわかりません。「このキリストは…」何ですか？

「万物の上にある、とこしえにほめたたえられる神です。」（ローマ9:5）

アーメン。もし、みなさんが今朝ここに座っておられてイエスの神性を受け入れられないならば、あなたは神の御言葉を受け入れられないのです。今読んだ神の御言葉がそう言っているのです。そして、皆さんが信者になった時、皆さんはイスラエルに取って代わったではありません。聖書は、あなたがたが接ぎ木されたと言っています。付け加えられる事は、取って代わる事ではありません。ローマ書11章16-24節。

「初物が聖ければ、粉の全部が聖いのです。根が聖ければ、枝も聖いのです。もしも、枝の中のあるものが折られて、野生種のオリーブであるあなたがその枝に混じってつがれ、そしてともに…」
（ローマ11:16-17）

「ともに…」 「ともに」と言ってください。「ともに」もう一度。（聴衆：「ともに」）「彼らの代わりに」と書かれていますか？こうあります。

「そしてオリーブの根の豊かな養分をともに受けているのだとしたら、あなたはその枝に対して誇ってはいけません。誇ったとしても、あなたが根をささえているのではなく、根があなたをささえているのです。枝が折られたの

は、私がつぎ合わされるためだ、とあなたは言うでしょう。そのとおりです。彼らは不信仰によって折られ、あなたは信仰によって立っています。高ぶらないで、かえって恐れなさい。もし神が台木の枝を惜しまれなかったとすれば、あなたをも惜しまれないでしょう。見てごらんください。神のいつくしみときびしさを。倒れた者の上にあるのは、きびしさです。あなたの上にあるのは、神のいつくしみです。ただし、あなたがそのいつくしみの中にとどまっていればあって、そうでなければ、あなたも切り落とされるのです。彼らであっても、もし不信仰を続けなければ、つぎ合わされるのです。神は、彼らを再びつぎ合わせる事ができるのです。もしあなたが、野生種であるオリーブの木から切り取られ、もとの性質に反して、栽培されたオリーブの木につがれたのであれば、もっとたやすく一緒に言ってください。「もっとたやすくこれらの栽培種のは、もっとたやすく自分の台木につがれるはずで。」(ローマ11:17-23)

ですから、この地球上に、月と太陽と星がある限り、イスラエルはまだ神の前に分け隔てられた、特殊な国民なのです。それははっきり分かりますか？それは私ですか？それとも神の言葉ですか？私ではありません。本当です。あのですね、私の祖父母はアウシュビッツを生き残りました。彼らは私にこう言った事があります。「私たちは選民でなければよかったのに。」私たちはあまりにも長く、苦しんで来ましたから。私を信じてください。イスラエル人が望んでいる事が一つあるとすれば、それは世界の他の国々と同じようになる事です。常に攻撃されたり、憎まれたり、迫害されたりしないで。平和と調和の中で暮らしたい。経済的にうまくやろう。世界の一部になろう。この世界的な取り組みの一環として…考えてみてください。最終的には、彼らはそこに達します。なぜなら、彼らは反キリストの君臨を許します。彼は、第三神殿をもって彼らを誘惑しますから、彼らはみんな、彼に好意を持ちます。彼が入ってきて、彼自身が神であると宣言するまでは。その時に、彼らは逃げ出します。ですから、この地上では分けられています。

エレミヤ書31章35-36節

「主はこう仰せられる。主は太陽を与えて昼間の光とし、月と星を定めて夜の光とし、海をかき立てて波を騒がせる方、その名は万軍の主。『もし、これらの定めがわたしの前から取り去られるなら、——主の御告げ。——』」「…なら」です。言い換えれば、太陽と月と星がなくなった時にだけ、その時になって、やっと、「『イスラエルの子孫も、絶え、いつまでもわたしの前で、一つの民をなすことはできない。』」

(エレミヤ31:35-36)

では、お聞きします。聖書は私たちに、そんな日が来ると言っているのでしょうか。月も星も太陽も無くなり、他の誰かが光になる日が？それらのものはもう必要なくなるから？そうです。だから、エレミヤのこの一節は、それは絶対に起こらないと言っているのではないんです。それは、「私たちがこの世にいる限り」、それは起こらないと言っているのです。しかし、神が新しい天と新しい地を造り、新しいエルサレムを造り、すべてが新しくなるとき、その時、どうなると思いますか？新しいエルサレムにはラビはいません。牧師もいないし、司祭もイマームもいません。新しいエルサレムには、イエス・キリストの信者だけがいます。ユダヤ人も、異邦人も、ギリシャ人もありません。何も。イスラエルも教会もありません。ユダヤ人も異邦人もありません。皆さん、思い出してください。ガラテヤ人への手紙4章4-5節には、子としての身分を受けることが記されています。異邦人である皆さんは、子としての身分を受けたのです。聖書には書かれています。(ガラテヤ書4章4-5節)

「しかし定めの時が来たので神はご自分の御子を遣わし、この方を、女から生まれた者、また律法の下にある者となさいました。これは律法の下にある者を贖い出すためで、その結果、私たちが子としての身分を受けるようになるためです。」(ガラテヤ4:4-5)

ここで、非常に興味深いものが見えてきます。キリスト・イエスを通してのみ、また、その定められた時、その定めの時が来た時からのみ、その時からだけ、人には子としての身分を得るチャンスがあったのです。昨日は、創世記3章にある、女の子孫(種)の話をしてきましたね。その約束について、すなわち、創世記で、神が与えた最初の聖書預言について。とても面白いです。何人の人が覚えているかわかりませんが、それは、「女の種」でした。男のものではありません。ここにいる女性の皆さんにお尋ねします。皆さんが持っているのは種ですか？卵ですか？もしも？女性には卵があり、男性には種があると同意してもらえますか？そういう仕組みです。男性によらない種が、女性のうちに

あるのでなければ。もしも？聖霊によって、マリアからイエスが生まれます。女の種に間違いなく、どんな男性のものでもありません。それがお分かりですか？しかし、皆さんに知っていただきたいのは、イエスの系譜の初めから終わりまで、…明らかに私たちにはマリアの話は出来ません…こんな風には…いいですか。皆さんにとっては問題ではないかも知れませんが、ユダヤ人にとって最大の問題の一つは、ここに男性が関わっていないのに、どうして女性が遺産相続の権利を持つ事が出来るのか、という事です。それが理解できますか？現代では、そうは考えないかも知れませんが、しかし、彼らは2000年前、もしくは3000年前には確実にそう考えていました。この礼拝の後、帰宅されたら、民数記27章を読んでいただきたいと思います。なぜなら、民数記27章はこの謎を解く鍵だからです。ツェロフハデの娘たち。モーセが、それが現実に可能だという結論を出したのはこの時だけです。ヨハネの黙示録12章13節。

「自分が地上に投げ落とされたのを知った竜は、」 竜は何を迫害しましたか？ **「男の子を産んだ女を追いかけた。」**
(黙示録12:13)

この場合、「女」とは、「男の子」つまりメシアを産んだイスラエルの国の事です。メシアは、蛇の頭を踏み砕くことになる方です。創世記3章15節です。そして、神が新しい天と新しい地を作るまでは、ユダヤ人にとって、ユダヤ人と異邦人信者の違いを橋渡しする唯一の方法は、そのユダヤ人がイエスを信じる事です。おわかりですか？私は板挟みになっています。私はユダヤ人の中でも、数少ない者の一人です。私は、ユダ族の出身です。私はとても、とても…私が所属するのは、とても小さなグループです。イスラエルには、ユダヤ人信者が2万人ほどいます。救いを待っている、救われていない人たちの陣営から、救われた人たちの陣営に私が移動するための唯一の方法、まだ分け隔てられている者たちから、子としての身分を受け、再び接ぎ木される事を、もはや必要としない者たちへ。私は今、新しく造られたものです。私は今、新しい命を手にかけています。もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。(ガラテヤ2:20) コロサイ人への手紙3章、ガラテヤ人への手紙3章、エペソ人への手紙2章によると、コロサイ3章11節。

「そこには、ギリシヤ人とユダヤ人、割礼の有無、未開人、スクテヤ人、奴隷と自由人というような区別はありません。キリストがすべてであり、すべてのうちにおられるのです。」 (コロサイ3:11)

ガラテヤ3章28節。

「ユダヤ人もギリシヤ人もなく、奴隷も自由人もなく、男子も女子もありません。なぜなら、あなたがたはみな、キリスト・イエスにあって、一つだからです。」 (ガラテヤ3:28)

エペソ2章14節。

「キリストこそ私たちの平和であり、二つのものを一つにし、隔ての壁を打ちこわし、…」 (エペソ2:14)

私はみなさんに警告します。再び壁を築き上げようとしている人たちの教えに従わないように警告します。彼らは、あなたは十分ではないと言おうとします。あなたはこれと、これと、これをしなければならぬ、と。安息日を守らなければならぬ、これをして、あれをしなければ…。私の言う事を聞いてください。彼らは、壁を打ち壊しているわけではありません。壁を築き上げているんです。彼らは、私が「イエス・プラス運動」と呼んでいるものだからです。イエス、それに付け加えて、これと、これと、これと、これをしなければならぬ。聞いてください。パウロも経験しました。彼は行く先々で、イエスを宣べ伝えました。彼が去ると、ユダヤ化主義者たちが来て、「あなたがたは割礼を受けなければならぬ」と言いました。生後8日目の子に、割礼を受けなければならぬと言うのと、38歳の男性に、割礼を受けないといけぬと言うのは、別の話です。主の喜びはすべて、フーッ！去っていきました。すごくうれしい！救いの喜び！やった～！あなたは割礼を受けなければならぬ。ああ、主よ。本当に？はい～～さあ、行きましょね。それは、神からのものではありません。ところで、この事が理由で、教会が歴史上で初めて集まった事を知っていますか？教会会議です。この理由で、使徒の働き15章です。家に戻って、確かめてください。ディヌ

グアンを飲むのがなぜ良くないか。ディヌグアン…何でしたっけ？ディヌグアンでしょう？ちゃんと分かっているんですよ。皆さん、血はだめです。それは、私たちのものではありません。

では、エホバの妻としてのイスラエルについてお話しします。まず初めに、神とイスラエルの間には婚姻証書があります。婚姻証書が存在し、聖書では、申命記とエゼキエル書にその事が記述されています。申命記5章1-3節。

「さて、モーセはイスラエル人をみな呼び寄せて彼らに言った。聞きなさい。イスラエルよ。きょう、私があなたがたの耳に語るおきてと定めとを。これを学び、守り行ないなさい。私たちの神、主は、ホレブで私たちと契約を結ばれた。主が、この契約を結ばれたのは、私たちの先祖たちではなく、きょう、ここに生きている私たちひとりひとりと、結ばれたのである。」（申命記5:1-3）

誓約があるのです。その後、彼は続けて言います。申命記6章10-15節。

「あなたの神、主が、あなたの先祖、アブラハム、イサク、ヤコブに誓われた地にあなたを導き入れ、あなたが建てなかった、大きくて、すばらしい町々、あなたが満たさなかった、すべての良い物が満ちた家々、あなたが掘らなかった掘り井戸、あなたが植えなかったぶどう畑とオリーブ畑、これらをあなたに与え、あなたが食べて、満ち足りるとき、あなたは気をつけて、あなたをエジプトの地、奴隷の家から連れ出された主を忘れないようにしなさい。あなたの神、主を恐れなければならない。主に仕えなければならない。御名によって誓わなければならない。ほかの神々、あなたがたの回りにいる国々の民の神に従ってはならない。あなたのうちにおられるあなたの神、主は、ねたむ神であるから、あなたの神、主の怒りがあなたに向かって燃え上がり、主があなたを地の面から根絶やしにされないようにしなさい。」（申命記6:10-15）

そして、エゼキエル書。エゼキエル16章8節。

「わたしがあなたのそばを通りかかってあなたを見ると、ちょうど、あなたの年ごろは恋をする時期になっていた。わたしは衣のすそをあなたの上に広げ、あなたの裸をおおい、わたしはあなたに誓って、あなたと契りを結んだ。――神である主の御告げ。――そして、あなたはわたしのものとなった。」（エゼキエル16:8）

神は…ここからは、夫が妻を描写するように、イスラエルを描写していきます。間違えないでください。裏切りがあった時には、…そして、確かに裏切りは起こりました。わたしは、優しくするつもりはない。彼らが感じよくなかったからだ。エレミヤ書3章1-5節。

「もし、人が自分の妻を去らせ、彼女が彼のもとを去って、ほかの男のものになれば、この人は再び先の妻のもとに戻れるだろうか。この国も大いに汚れていないだろうか。あなたは、多くの愛人と淫行を行なって、しかも、わたしのところに帰ると言っている。――主の御告げ。――目を上げて裸の丘を見よ。どこに、あなたが共寝をしなかった所がある。荒野のアラビヤ人がするように、道ばたで相手を待ってすわり込み、あなたの淫行と悪行によって、この地を汚した。それで夕立はとどめられ、後の雨はなかった。それでも、あなたは遊女の額をしていて、恥じようともしない。今でも、わたしに、こう呼びかけているではないか。『父よ。あなたは私の若いころの連れ合いです。いつまでも怒られるのですか。永久に怒り続けるのですか。』と。なんと、あなたはこう言っている、できるだけ多くの悪を行なっている。」（エレミヤ3:1-5）

エレミヤ書3章20節。

「ところが、なんと、妻が夫を裏切るように、あなたがたはわたしを裏切った。イスラエルの家よ。――主の御告げ。――」（エレミヤ3:20）

エレミヤ書31章にはこう書かれています。エレミヤ書31章32節。

「その契約は、わたしが彼らの先祖の手を握って、エジプトの国から連れ出した日に、彼らと結んだ契約のようではない。わたしは彼らの主であったのに、彼らはわたしの契約を破ってしまった。――主の御告げ。――」
(エレミヤ31:32)

この夫と妻の比喩は、私のでっち上げたものではないんです。主が言われたんです。それから、もちろんエゼキエル書16章。エゼキエル16章15-34節。

「ところが、あなたは、自分の美しさに抛り頼み、自分の名声を利用して姦淫を行ない、通りかかる人があれば、だれにでも身を任せて姦淫をした。」(エゼキエル16:15-34)

聞いてください。私はこれを全部は読みませんよ。憂鬱になります。まず、長いです。第二に、本当にひどい事が描かれています。ホセア書に移ります。ホセア書2章2-5節。

「『あなたがたの母をとがめよ。とがめよ。彼女はわたしの妻ではなく、わたしは彼女の夫ではないからだ。彼女の顔から姦淫を取り除き、…』」(ホセア2:2-5)

見てください。神はイスラエルをそのように描写しています。私はユダ部族のユダヤ人として、イスラエル人として、新生して御霊に満たされている者として立っています。そして、私は皆さんに言います。これは神の言葉の一部であり、無視する事は出来ません。神が語っておられる裏切りがあったのです。しかし問題は、異邦人たちがここで止まりたがる事です。そして、彼らは、本当に何が起こるのか、そこから先に進みたがらないのです。ちなみに、婚姻証書について。イザヤ書50章1節。

「主はこう仰せられる。『あなたがたの母親の離婚状は、どこにあるか。わたしが彼女を追い出したというのなら。あるいは、その債権者はだれなのか。わたしがあなたがたを売ったというのなら。見よ。あなたがたは、自分の咎のために売られ、あなたがたのそむきの罪のために、あなたがたの母親は追い出されたのだ。』」(イザヤ50:1)

いいですか。神は離婚を憎まれます。しかし、神は、彼らの裏切りのために、ご自分とイスラエルの間に起こった事を離婚として描写しています。エレミヤ書3章6-10節に書いてあります。エレミヤ書3章6-10節。

「ヨシヤ王の時代に、主は私に仰せられた。『「あなたは、背信の女イスラエルが行なったことを見たか。彼女はすべての高い山の上、すべての茂った木の下に行って、そこで淫行を行なった。わたしは、彼女がすべてこれらのことをしたあとで、わたしに帰って来るだろうと思ったのに、帰らなかった。また裏切る女、妹のユダもこれを見た。背信の女イスラエルは、姦通したというその理由で、わたしが離婚状を渡してこれを追い出したのに、』」

何を渡して？離婚状です。注目してください。

「『裏切る女、妹のユダは恐れもせず、自分も行って、淫行を行なったのをわたしは見た。彼女は、自分の淫行を軽く見て、国を汚し、石や木と姦通した。このようなことをしながら、裏切る女、妹のユダは、心を尽くしてわたしに帰らず、ただ偽っていたにすぎなかった。――主の御告げ。――』」(エレミヤ3:6-10)

つまり、結婚という大きな契約がありました。大きな裏切りがありました。離婚状もありましたし、裏切りに対する罰もありました。エゼキエル16章、ホセア2章、エレミヤ3章です。いつでも、機会のある時に、ご自分でお読みください。これらはかなりの長文なので、皆さんにお任せしたいと思います。しかし、今、私は教会が教えていない事をお話したいと思います。なぜなら、言うのは簡単ですから。「ああ、イスラエルは、かつて神と共にあったが、彼らは神を裏切ったから、神は彼らを私たちに置き換えた」教会はそう言っているのです。まあ、聖書を半分くらいし

か読んでいないでしょう。自分の都合の良いところで止まる。しかし、主は、その罰で終わりににはされません。皆さん、聞いてください。その後、回復された婚姻関係と祝福があるのです。それはイザヤ書62章とエゼキエル書16章の終わり、イザヤ書54章、エレミヤ書31章、ホセア書2章にあります。イザヤ62章4-5節。

「あなたはもう、『見捨てられている。』と言われず、あなたの国はもう、『荒れ果てている。』とは言われぬ。かえって、あなたは（ヘフツィバ）『わたしの喜びは、彼女にある。』と呼ばれ、」－わたしはあなたを切望する、あなたを欲する－の意。「あなたの国は夫のある国（ベウラ）と呼ばれよう。」－わたしがそれを所有する－「主の喜びがあなたにあり、あなたの国が夫を得るからである。若い男が若い女をめとるように、あなたの子らはあなたをめとり、花婿が花嫁を喜ぶように、あなたの神はあなたを喜ぶ。」
(イザヤ62:4-5)

それは未来形で書かれています。神はイザヤに言っています。イザヤよ、悪い事ばかりを書くな。わたしはあなたに未来の希望の事を書いてほしい。わたしが未来に行き、わたしが見る事、全世界が目撃する事を。そして、エゼキエル書（16章60-63節）。「だが…」良くない事をさんざん言った後で、エゼキエル書16章60-63節。

「だが、わたしは、あなたの若かった時にあなたと結んだわたしの契約を覚え、（わたしは）…立てる。」一緒に言ってください。「あなたととこしえの契約を立てる。わたしが、あなたの姉と妹とを選び取り、あなたとの契約には含まれていないが、わたしが彼女たちをあなたの娘としてあなたに与えるとき、あなたは自分の行ないを思い出し、恥じることになろう。わたしがあなたとの契約を新たにするとき、あなたは、わたしが主であることを知ろう。それは、わたしが、あなたの行なったすべての事について、あなたを赦すとき、あなたがこれを思い出して、恥を見、自分の恥のためにもう口出ししないためである。」
(エゼキエル16:60-63)

神は言われます。「わたしはあなたが行なったすべてのことについて、贖いを与えよう。」神はエゼキエルによって言われます。「わたしが贖いを与える日が来る。」キプール。（ヘブライ語）イエスが来られたのはこのためです。イザヤ書62章。

「あなたはもう、『見捨てられている。』と言われず」それは、もう読みましたね。イザヤ書54章1-8節。

「『子を産まない不妊の女よ。喜び歌え。産みの苦しみを知らない女よ。喜びの歌声をあげて叫べ。夫に捨てられた女の子どもは、夫のある女の子どもよりも多いからだ。』と主は仰せられる。『あなたの天幕の場所を広げ、あなたの住まいの幕を惜しみなく張り伸ばし、綱を長くし、鉄のくいを強固にせよ。あなたは右と左にふえ広がり、あなたの子孫は、国々を所有し、荒れ果てた町々を人の住む所とするからだ。恐れるな。あなたは恥を見ない。恥じるな。あなたははずかしめを受けないから。あなたは自分の若かったころの恥を忘れ、やもめ時代のそしりを、もう思い出さない。あなたの夫はあなたを造った者、その名は万軍の主。わたしは…あなたを集める。怒りがあふれて、ほんのしばらく、わたしの顔をあなたから隠したが、永遠に変わらぬ愛をもって、あなたをあわれむ。』とあなたを贖う主は仰せられる。」（イザヤ54:1-8）

新約聖書は異邦人に与えられた、と言いたい所ではありますが、それは事実ではありません。聖書はこう述べます。エレミヤ書31章31-34節。

「見よ。その日が来る。――主の御告げ。――その日、わたしは、…新しい契約を結ぶ。」

ブリット・ハダシャ。新しい契約です。新しい契約は古い契約(旧約)において予告されていました。主はそれを誰に与えられると言われますか？

「イスラエルの家とユダの家とに」「『その契約は、わたしが彼らの先祖の手を握って、エジプトの国から連れ出した日に、彼らと結んだ契約のようではない。わたしは彼らの主であったのに、彼らはわたしの契約を破ってしまった。――主の御告げ。―― 彼らの時代の後に、わたしがイスラエルの家と結ぶ契約はこうだ。――主の御告げ。―― わたしはわたしの律法を彼らの中に置き、彼らの心にこれを書きしるす。』」

靈的なものです。それはもはや律法ではありません。今や、それは靈です。それは、もはや巻物には書かれませんが、それは彼らの心の板に書かれる事になります。

「『わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。そのようにして、人々はもはや、『主を知れ。』と言って、おのおの互いに教えない。それは、彼らがみな、身分の低い者から高い者まで、わたしを知るからだ。――主の御告げ。―― わたしは彼らの咎を赦し、彼らの罪を二度と思い出さないからだ。』」
(エレミヤ31:31-34)

ホセアもまた、2章でそのように言いました。14-23節において、長く、美しく。だから私たちは、イスラエルが聖書の中で父なるエホバの妻として描かれている事を理解しました。そして、そこには素晴らしい契約がありました。初めの愛が、とても美しく描かれていました。裏切りがありました。罰がありました。しかし、その後には、もちろん、多くの人々が忘れてしまう事があります。それは婚姻関係の回復であり、それに伴う祝福の事です。

では、教会の話をしてしまおう。教会、イエスの花嫁。まずは、婚約です。第2コリント11章2節には、こう書かれています。第2コリント11章2節。

「というのも、私は神の熱心をもって、熱心にあなたがたのことを思っているからです。私はあなたがたを、清純な処女として、ひとりの人の花嫁に定め、キリストにささげることにしたからです。」
(第2コリント11:2)

私たちは、婚約がある事を知っています。結婚の一つ前の段階です。「あなたはすでに私のものですが、結婚を祝うのはもうじきです。」それから、エペソ5章に描写されている聖化と準備があります。エペソ5章25-27節。

「夫たちよ。キリストが教会を愛し、教会のためにご自身をささげられたように、あなたがたも、自分の妻を愛しなさい。キリストがそうされたのは、みことばにより、水の洗いをもって、教会をきよめて聖なるものとするためであり、ご自身で、しみや、しわや、そのようなものの何一つない、聖く傷のないものとなった栄光の教会を、ご自分の前に立たせるためです。」 (エペソ5:25-27)

私たちはみんな、誰一人としてふさわしくありません。ご自分でお分かりですね。私にはあなたの事は分かりません。皆さんはご自分を知っています。私の事はあなたには分かりませんが、私は自分を知っています。そして、私たちはみんな、自分がいかに価値のない人間であるかを知っています。そうですね？それにもかかわらず、イエスの血によって、神は、もはや私たちを、ありのままのレンズで、恥ずべき裸の姿では見ておられません。今、神が私たちの事を見ておられるのは、もし、私たちが本当にキリストの血を振りかけられ、キリストを信じ、信賴しているならば、神は、レンズにもう一枚のフィルターを加えておられます。それは(キリストの)血です。その血を通して、神はあなたを完璧なものとして見られます。そして、婚姻です。婚姻は黙示録19章6-9節にあります。黙示録19章6-9節。

「また、私は大群衆の声、大水の音、激しい雷鳴のようなものが、こう言うのを聞いた。『ハレルヤ。万物の支配者である、われらの神である主は王となられた。私たちは喜び楽しみ、神をほめたたえよう。小羊の婚姻の時に来て、花嫁はその用意ができたのだから。花嫁は、光り輝く、きよい麻布の衣を着ることを許された。その麻布とは、聖徒たちの正しい行ないである。』」 (黙示録19:6-9)

皆さんは、おそらく「聖徒たちとは誰なのか」と思っておられるでしょう。あなたがたが聖徒です。いや、いや、私は自分を知っている。私は聖徒ではない。いえ、あなたは聖徒なんです。あなたにそれが理解出来ないなら、あなたがそう思わないのも不思議はありません。

「御使いは私に『小羊の婚宴に招かれた者は幸いだ、と書きなさい。』と言い、また、『これは神の真実のことばです。』と言った。」

つまり、神はイエスのために花嫁を用意されました。それは私たちみんなの事です。神は私たちを清めてくださって、その日のために私たちを整えてくださっています。そして、私たちが携挙される時…なぜなら、黙示録19章のこれは…婚宴はここでは起こりませんから。ここでは私たちは二次会をします。私たちが地球に戻って来る時に。しかし、婚宴があるのは、天です。あなたが未来の花嫁として、イエスと結婚したいなら、あなたは携挙されて、天でキリストの前にいなければなりません。そしてもちろん神は言われます。いや、それだけではない、と。わたしは良き夫として、あなたのために永遠の住まいを用意している、と。黙示録21章5節。

「すると、御座に着いておられる方が言われた。『見よ。わたしは、すべてを新しくする。』また言われた。『書きしるせ。これらのことばは、信ずべきものであり、真実である。』」（黙示録21:5）

黙示録21章9-22節。

「また、最後の七つの災害の満ちているあの七つの鉢を持っていた七人の御使いのひとりが来た。彼は私に話して、こう言った。『ここに来なさい。私はあなたに、小羊の妻である花嫁を見せましょう。』そして、御使いは御霊によって私を大きな高い山に連れて行って、聖なる都エルサレムが神のみもとを出て、天から下って来るのを見せた。都には神の栄光があった。その輝きは高価な宝石に似ており、透き通った碧玉のようであった。」黙示録21:9-11)

”crystalclear”(水晶のように透き通った) = 「明白な」という表現は、そこから来ています。それから、こうあります。

「都には大きな高い城壁と十二の門があって、それらの門には十二人の御使いがおり、」そこに書かれている12の名前は、…ローマに通じる12の道ですか？「イスラエルの子らの十二部族の名が書いてあった。東に三つの門、北に三つの門、南に三つの門、西に三つの門があった。また、都の城壁には十二の土台石があり、それには、小羊の十二使徒の十二の名が書いてあった。」（黙示録21:12-12）

いいですか。教会はそれら12人の使徒の土台の上に建てられたんです。私がそう言う理由は、「新しい使徒による『新使徒改革』がある」と言おうとしている動きがあるからです。違います！それは、その12人で、すべてはその上に築かれているのです。そして、それらはそこにあるその土台なんです！最後に皆さんが家を建てたのはいつですか？土台は上に置きますか？下に置きますか？土台から始めますか？それとも、土台で終わらせますか？ああ、私には新しい仕事がある。私は下に土台を敷いて、そして、新しい啓示があって、上にも土台があるべきだと言っている。なんとも不信心で、聖書に反する事であり、科学的にさえも間違っています。そして、彼は言います。見なさい。この世はみな、お金や、金や、ダイヤモンドや、銀を追いかけしている。誰もが超大金持ちになりたいと思っている。金持ちになったら、彼らは自殺する。満足が得られないから。そして、見てください。…あなたが争って得ようとしているものは…見てください。彼がその都を測ると、1万2千スタディオンの長さがありました。そして、彼は言います。

「(都の城壁の土台石は)あらゆる宝石で飾られていた。第一の土台石は碧玉、第二はサファイヤ、緑玉、」（黙示録21:19）

貴かんらん石、緑柱石、黄玉…綺麗な真珠、美しいものばかりです。皆さんは、純金の大通りを歩くんですよ。金は、「おー、金庫に入れておくれ！」というものではありません。あなたはその上を歩くのです。敷石です。だから、皆さんはこう言えるのです。「私はすごく富んでいる。私の未来の都では、金が敷石になるんだ。」イスラエルを通

し、また、教会を通して、私たちは神について学びます。私たちは神の本質を見ます。つまり神は…ねたむ神です。しかし、彼は愛に満ちた神です。そして、寛容な神です。そして、回復される神です。

締めくくりに、申し上げます。私は、このメッセージを書いている間に、「神はイスラエルを置き換えられた」と教えている人たちの事を考えていました。「イスラエルはもはや神の民ではない」と。世界中に広まっている改革派神学です。私は、アムステルダムの大スタジアムで6000人の人たちに教える機会がありましたが、断ったんです。私が断った理由は、説教壇を共にする予定だった講師が改革派で、置換神学を教えていたからです。非常に有名な牧師ですよ。ものすごく有名です。今は彼の名前は言いませんけど。でも、一つだけ言える事があります。私は気づいたのです。それはソーシャルメディア上で素晴らしい写真になったりしたでしょうが、私は、次のような事を信じている人と一緒に説教壇に立つ事は出来ない、と。つまり、神はもはや…イスラエルの回復の神ではなく、教会がイスラエルに取って代わったのであり、イスラエルに対する、神の偉大で特殊な計画はもはや存在しない、と。そして、私はこのメッセージを作成している間に、思い出したのです。驚くほどに素晴らしい、放蕩息子の話を。(ルカ15:31-32) 私はそれまで、放蕩息子の話が教会とイスラエルの図式であるとは思っていませんでした。しかし、主は本当に私に示されたのです。父と一緒にいるあの忠実な息子は教会であり、放蕩息子は、イスラエルであったかも知れません。自分の義を求めてあらゆる所に出かけて行きました。そして、イスラエルが主のもとに戻って来ようとするとき、主は彼らを拒まれる事はありません。主は彼らを抱きしめられるのです。私たちは、忘れてはいけません。戻って来る放蕩息子への父の愛は、自分と一緒にいた息子への愛を微塵も減らしませんでした。神がイスラエルを愛するなら、私たちへの神の愛は少なくなる、という事ではありません。神がたくさん与えてしまったら、私たちにはほとんど残っていない、というようなものではありません。

ルカの福音書15章31-32節。

「父は彼に言った。」皆さん、神は教会にそう告げておられるんです。「『おまえはいつも私といっしょにいる。私のものは、全部おまえのものだ。だがおまえの弟は、死んでいたのが生き返って来たのだ。いなくなっていたのが見つかったのだから、楽しんで喜ぶのは当然ではないか。』」(ルカ15:31-32)

教会はイスラエルを愛するべきです。彼らの救いのために祈ってください。なお、イエスの足がオリーブ山に立つ日が来ます。そして、聖徒たちが彼と一緒に戻って来るとき、ゼカリヤ書12章にあるように、イスラエルは自分たちが突き刺した者を見て、彼らは泣き、嘆きます。彼らは悔い改めます。そして、ローマ人への手紙11章にあるように、**「イスラエルはみな救われる」**のです。

お父様。私たちは御言葉を感謝します。あなたの御約束を感謝します。あなたのご性質に感謝します。あなたがどういとお方であるかを感謝します。今の自分を思うと、私たちはあなたを「お父様」と呼ぶ事すら、恥ずかしいくらいです。でも、あなたが、ありのままのレンズを通して私たちを見ておられない事に感謝します。そうではなく、イエスというお方、そしてイエスが十字架上でなされた事のレンズを通される事を。そして、その流された血、私たちの血ではなく、彼の血が、ちょうど、裁きから逃れるためにイスラエル人が家の門柱に塗る必要があった罪のない子羊の血と同じように、私たちには、子羊やヤギや羊や雄羊よりも、はるかに優れたお方の尊い血があります。これは、決して一度も罪を犯さなかった尊い完璧な神の御子の血です。そして、その血によって、私たちが洗われ、清められ、整えられる事をとて嬉しく思います。携挙と、天で私たちを待っている婚姻のために。それまでの間、お父様、パウロがイスラエルの人々のために持っていたような心を私たちに持たせてください。私たちが彼らのために祈らせ、彼らに伝道させ、彼らを愛させるようにする、あの痛みと悲しみを。彼らは、愛されていますから。神が滅びを宣言しなかったものに、どうして私たちが滅びを宣言できましょうか？神が呪わなかったものを、どうして私たちが呪う事が出来るのでしょうか？

お父様、私たちはあなたに感謝します。あなたと共にいる息子として、私たちは、放蕩息子が帰ってくる時に彼を歓迎する事が出来ます。そして、彼はかつては死んでいたが、今は生き返っている事を理解できます。いなくなっていたのが、見つかった事を。あなたが私たちを見つけてくださった事を感謝します。私たちは失われていました。私たちは、あなたがイスラエルも見つけてくださる事を感謝します。そして、私たちが帰って来る時、彼らは国家的な救いを経験する事を。私たちはあなたに感謝し、あなたの御名をほめたたえます。



メッセージ by Amir Tsarfati / Behold Israel :<http://beholdisrael.org/>

ビホールドイスラエル 日本語 YouTube チャンネル

<https://www.youtube.com/channel/UCLcuvC6Mr63AqwiiXDkwRVQ>

2020.06.17 (Wed)